

「未来を見据え、主体的に生き抜く児童・生徒の育成」

～基礎的・汎用的能力を育む授業づくり～

山口県岩国市立灘小学校

校長 福本 稔

1 はじめに

本校のある灘地区は、岩国市の南西部に位置し、灘村と称していた頃は純然たる農漁村であったが、瀬戸内海に面した地域に東洋紡の工場や、中国電力の発電所（火力発電所）が建設され、工業地帯として大きく発展してきた。

灘の地域は、古くから教育への関心が高く、灘中学校、中洋小学校及び本校の3校の持ち回りで、毎年「灘地区3校教育研修会」が開催されてきた。その他にも、学校への支援活動が非常に積極的に行われるとともに、地域のスポーツ行事や文化的な行事も盛んに行われている。

そのような中、令和4年度から2年間の計画で灘中学校区においてキャリア教育推進事業が進められ、3校共同の研究主題のもと、基礎的・汎用的能力を育む授業づくり等に取り組んでいる。

2 主題設定の理由

人生100年時代と言われる今、学校教育において生涯にわたって、生き抜くための力を身に付けていく必要があるのではないかと考える。

平成23年1月31日、中央教育審議会は「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方については、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力を育てることを通して、キャリア発達を促す教育である」と示されている。

そのことを踏まえて、研究主題を灘中学校区の3校統一で、「未来を見据え、主体的に生き抜く児童・生徒の育成」、副主題を「基礎的・汎用的能力を育む授業づくり」と設定した。

本研究においては、

- 1 キャリア教育を通して、基礎的・汎用的能力を構成する4つの要素を通して、教育活動をとらえ直す
- 2 小中一貫したカリキュラムの作成とその実践による検証
- 3 地域や事業所、家庭との連携をコミュニティ・ス

クールや地域協育ネットを活用し、効果的に教育活動に位置づける仕組みづくりの3点をめざしていくこととした。

3 推進の2本柱

3校共通の研究主題に迫るため、3校での協議を重ねる中で、

- ① 基礎的・汎用的能力を意識した授業づくり
 - ② キャリア・パスポートの効果的活用
- を研究推進の2本柱として取り組んでいくこととした。

【① 基礎的・汎用的能力を意識した授業研究】

基礎的・汎用的能力とはどのようなものか、教員と子供が共有できるように、以下のように簡単な言葉に置き換えることとした。

- ① 人間関係形成能力 → 他者とながらう
- ② 自己理解能力 → 自分を見つめよう
- ③ 課題対応能力 → 課題を追求しよう
- ④ キャリアプランニング能力
→ 将来とながらう

日々の実践において、各教科を通したキャリア教育とは、扱う単元や題材等にキャリア教育的な『何か』を新たに付け加えることではない。ねらうべきは、「各教科の目標」であり、各教科における見方・考え方である。単元の内容やねらいを達成するための授業展開(指導手法)の中に、キャリア教育としての価値が潜んでおり、その価値を見いだし、それを意識して指導する。特別なことをするのではなく、これまでの授業に、上記の①～④の「キャリア教育の視点」を見出していく

日でプレゼンしたときの発表原稿など、学習や普段の生活の努力がよく分かるものなどが入っている。

〔キャリアファイル：高学年の例〕

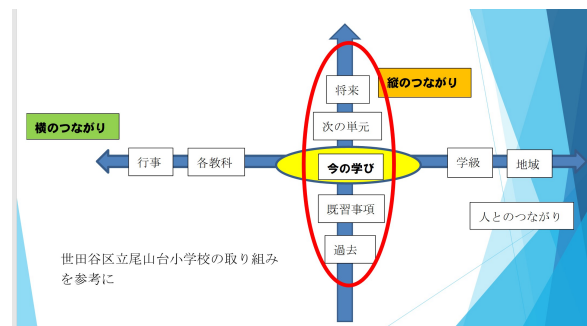


縦割り班で、6年生が下学年たちと楽しく交流した際の児童集会の司会原稿、タブレットで作成した修学旅行の新聞、卒業文集の下書き、読書感想画など、かなり時間や労力を費やしてできた物などが入っている。

そして、③キャリアファイルの中から1年間で4枚のシートを子供たち自身が選び、キャリア・パスポートとして累積していくことを共通理解した。

4 「学ぶ意義」とは

もう一つの推進の柱である授業づくりについては、3校での合同研修会を何度なく開催し、その都度、講師の方から助言をいただいていた。その中で、以下のような点について学んできた。



「各教科の見方・考え方を働かせた授業を継続することで、キャリア教育の視点から縦のつながりや、横のつながりを意識することによって、児童一人ひとりが、

- ◎ 教科の面白さ ← 見方・考え方
- ◎ 学習内容のつながり ← 縦のつながり
- ◎ 将来とのつながり ← 縦のつながり
- ◎ 他教科とのつながり ← 横のつながり
- ◎ 日常生活とのつながり ← 横のつながり

を実感することで、学ぶ意義を感じることができる。」

そこで、それぞれの授業の中では、キャリア教育の4つの視点に、各教科の見方・考え方を働かせた内容に焦点を当てていくこととした。

昨年度、中間発表会で公開した3つの授業（国語、算数、総合的な学習の時間）においては、各教科の見方・考え方を以下のように捉えて実践を行った。

○国語科における見方・考え方

「言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童（生徒）が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」

○算数科での見方・考え方

「数学的な見方・考え方を働かせるとは、事象を数量や図形及びそれらの関係などに注目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること」

○総合的な学習の時間での見方・考え方

「各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続ける」という総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方のこと」

5 授業実践（令和4年11月10日）

令和4年度には本校で、2年生の算数、4年生の国語、6年生の総合的な学習の時間の3つの授業を公開した。ここでは、その一つ、4年生の国語を例に挙げて紹介する。

【4年生 国語「ごんぎつね」】

本時で目指す子どもの姿を

① 【人間関係形成能力（他者理解、コミュニケーション・スキル）】

友達と交流する中で、互いの考えに違いがあることに気づき、意見を変更したり、理由を追記したりするという活動する中で、お互いのよさを学ぼうとする姿

② 【キャリアプランニング能力（学ぶことの意義）】

ものの見方（言動、情景描写）を使って、最後の場面の登場人物同士の関わりに着目し、両者の気持ちを読み取ることで、前時までの学習が生かされていることを実感する姿

とした。

授業では、班での話し合い活動では、オクリンクの書き込みを見ながら、意見を交流できるようにした。

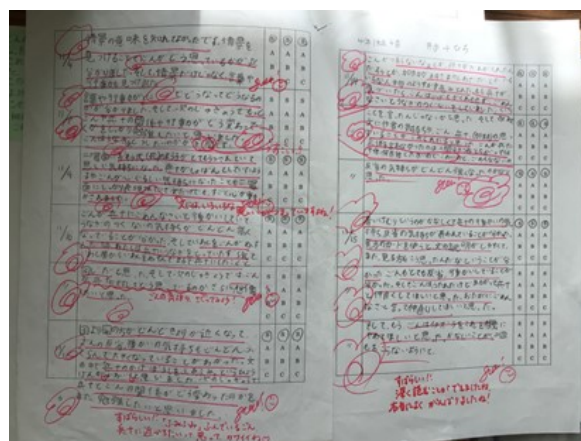
叙述を基にして登場人物の心情を想像し、自分の考えを理由もつけて言えるようにする。そして、他者と考えが違う場合は、意見を変更したり、追記をしたりできるようにした。



振り返りでは、見方・考え方の視点を使うことにより、物語を深く読み取ることができること、学習を積み重ねることの大切さや、学習する意義を感じることができるようにした。振り返りが書けたら、ルーブリック評価ワークシートの写真を撮り、teams で共有することで、友達のことを知ったり、自分の考えに生かしたりすることができるようにした。



成果として、本時では見方・考え方の視点を使って、叙述から自分の考えの根拠を見つけることができるようにオクリンクや視点のカードを活用して授業を展開した。視点別に色分けしたカードをオクリンク上に作成することで、視点を意識しながら根拠を見つけることができていた。結論から述べることで聞き手が分かりやすい発表を心がけたので、子どもたちは、めあてに対しての自分の考えをしっかりともらった上で、その根拠を探していくことができた。また、授業の始めに演劇的手法で音読を行ったことで、子どもたちはごんや兵十になりきって、楽しみながら物語の世界に浸ることができていた。



ルーブリック評価ワークシートの例

6 おわりに

これまでの研究の成果として、教職員からは

- ・児童が、学習した事を振り返る事ができ、4つの視点を意識させながら、活動に取り組むことができた。
- ・公開授業を通して、基礎的・汎用的能力の育成をめざした授業をどのようにつくればよいのか、また、普段からできるキャリア教育について理解することができた。
- ・子供たちも主体的に取り組む姿が見られ、良かったと思う。キャリア・パスポートへ自分の記録を蓄積することで、自分が興味をもっていることに気付いたり、自分ががんばったことに自信をもったりでき、良かったと思う。

などが挙がっており、キャリア教育への理解が深まったことがうかがえる。

また、今後の研究の推進に向けての課題として、

- ・各教科の見方・考え方がまだはっきりと捉えきれていない。教科の指定がない分、自由に研究ができるが、何かの教科に絞ると深化できるかもしれない。
- ・授業づくりを通して、それぞれの教科の見方・考え方などについて学びを深められるようになるともっと良いと思う。
- ・キャリア・パスポートは、児童同士で見せ合ったり、教員同士で見せ合ったりして、実のあるものにしていきたい。

などが挙げられている。

これまでの研究の成果と課題を今後も全教職員で共有し、深化・充実を図っていくことで、児童とともに、「何のために学ぶのか」、「なぜ学び続けるのか」を問い続ける、そういう学校であり続けたいと思う。